

指定管理者制度導入施設の管理運営に関する評価票(評価対象年度:令和元年度)

施設 の 名 称	宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリセンター
指 定 管 理 者 の 名 称	(公財)宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団
施 設 所 管 部 課 (室)	環境生活部 自然保護課

1. 当該施設の管理形態の推移【施設所管課記入】

期 間	管理形態	指定管理者(管理受託者)の名称	摘 要
平成21年 4月 ~ 平成26年 3月	指定管理者	(公財)宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団	
平成26年 4月 ~ 平成31年 3月	指定管理者	(公財)宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団	
平成31年 4月 ~ 令和 6年 3月	指定管理者	(公財)宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団	

(注)管理形態欄には、直営・管理委託・指定管理者の別を記入してください。

2. 現指定管理者の概要【施設所管課記入】

指 定 管 理 者 の 名 称	名 称	公益財団法人宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団
	所在地	栗原市若柳字上畑岡敷味17番地の2
指 定 期 間	平成31年 4月 1日 ~ 令和 6年 3月31日 (5か年)	
募 集 方 法	<input type="checkbox"/> 公募 <input checked="" type="checkbox"/> 非公募	

3. 施設の概要【施設所管課記入】

施 設 の 名 称	宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリセンター	
所 在 地	栗原市若柳字上畑岡敷味17番地の2	
設 置 年 月	平成 3年 1月	
根 拠 条 例 等	サンクチュアリセンター条例	
設 置 目 的	伊豆沼・内沼を調査・研究し保全対策を確立するとともに、人間と野生動植物とが共存する優れた自然環境としてのサンクチュアリ(聖域)を創造し、併せて県民の自然保護思想の高揚と自然と調和した活力ある地域づくり等を推進するため設置されました。	
施 設 の 内 容	敷 地 面 積	3,850 m ²
	構 造	鉄筋コンクリート造り 2階建て
内 容	1階	829.87m ² (事務室、資料室、実験室、研修室、ボランティアルーム)
	2階	563.62m ² (会議室、展示室、軽食喫茶室、観察展望室)
開 館 (所) 日	◇ 月曜日(休日を除く)を除く日 ◇ 休日の翌日(日曜日、土曜日、1月2日を除く。)を除く日 ◇ 12月29日から12月31日を除く日	
開 館 (所) 時 間	午前9時00分 ~ 午後4時30分	
指 定 管 理 者 が 行 う 業 務 の 範 囲	1 宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリセンター ①建物等の管理 ②物品の使用及び管理 ③施設の共用等について ④入館の拒否等 ⑤損傷等の届け出 ⑥展示物等の管理、保全及び維持管理 ⑦事故防止と発生時の処理 ⑧再委託業務について ⑨施設の管理運営に関する環境配慮について ⑩事業報告 2 伊豆沼・内沼周辺地域維持管理及び整備業務 ①水生植物園の維持管理及び整備 ②買上地(県有地)の維持管理及び整備 ③ハス田の維持管理 ④観察路の維持管理及び整備	
利 用 料 金 制	採 用 の 有 無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
	利 用 料 金 の 名 称	

4. 施設利用実績【施設所管課記入(太枠内は指定管理者記入)】

(1) 開館(所)日数及び利用者数

項 目	事業計画	実 績		対計画比 (C)/(A)	対前年度比 (C)/(B)
	評価対象年度 (令和元年度) (A)	前 年 度 (平成30年度) (B)	評価対象年度 (令和元年度) (C)		
開館(所)日数	300 日	308 日	307 日	102.3%	99.7%
延べ利用者数	30,000 人	33,248 人	31,808 人	106.0%	95.7%

(注)対象施設が複数ある場合は、施設ごとに記入してください。

(2) 延べ利用者数の内訳

項 目	事業計画	実 績		対計画比 (C)/(A)	対前年度比 (C)/(B)
	評価対象年度 (令和元年度) (A)	前 年 度 (平成30年度) (B)	評価対象年度 (令和元年度) (C)		
	30,000 人	33,248 人	31,808 人	106.0%	95.7%
	人	人	人		
	人	人	人		
	人	人	人		
	人	人	人		
合 計	30,000 人	33,248 人	31,808 人	106.0%	95.7%

5. 管理運営収支実績【施設所管課記入(太枠内は指定管理者記入)】

(1) 収入

(単位:千円, %)

項 目	事業計画	実 績		対計画比 (C)/(A)	対前年度比 (C)/(B)
	評価対象年度 (令和元年度) (A)	前 年 度 (平成30年度) (B)	評価対象年度 (令和元年度) (C)		
県指定管理料	30,261	28,724	30,261	100.0%	105.4%
利用料金収入					
その他					
収入計 (a)	30,261	28,724	30,261	100.0%	105.4%

(2) 支出

人件費	18,987	18,253	18,892	99.5%	103.5%
施設管理費	11,274	9,803	11,181	99.2%	114.1%
事業運営費					
その他		668	188		28.1%
支出計 (b)	30,261	28,724	30,261	100.0%	105.4%

(3) 収支

収 支 (c)=(a)-(b)	0	0	0		
前期繰越収支差額					
次期繰越収支差額					

※ 自主事業を実施している場合は、上記に準じて、自主事業の収支実績を別掲すること。

6. 評価対象年度(令和元年度)の管理運営評価【指定管理者・施設所管課記入】

項目	事業実績 【指定管理者記入】		指定管理者の自己評価 【指定管理者記入】		県の評価 【施設所管課記入】		
				評価		評価	
①管理運営体制	指定管理者として、「管理運営業務仕様書」に基づき、施設の有効活用を図るとともに、破損箇所等の早期発見と保守に努め、経費節減等も図りながら、適切に保全・管理した。		運営に関しては、少ない人数で総合的施策の推進と教育的効果の向上を図りながら、施設備品の適切な管理と利用入館者への接客サービスに意を用い、自然保護・動物愛護思想普及に相乗的効果があがるよう運営管理を行った。		A	施設管理及び各種事業等に職員が鋭意取り組んでおり、適正な管理運営がなされている。	A
人員体制	正規	4人	非正規	5人			
②施設・設備の維持管理業務の実施	1 日常的に施設並びに設備関係、展示品の見回り点検を行い、破損箇所や不具合の早期発見に努めた。 2 施設管理に関する法令を遵守し、清掃業務・消防設備保守点検・空調設備保守点検・重油タンク清掃業務・貯水槽清掃業務・エレベーター保守点検・機械警備業務については、指名競争入札により委託業者を選定し、適切な管理の下、経費節減に努めた。		法令を遵守し定められた点検・検査を行うとともに、職員が常時、建物内及び敷地内を巡回し、盗難、汚損及びゴミの不法投棄等の防止を行った。		A	法令に従い管理施設の保守点検がなされている。また、管内の展示物や設備機器についても適正に管理されており、管内の清掃も行き届いている。	A
③運営業務(ソフト事業等)の実施	別記1のとおり		各研究員が研究内容をシンポジウム及び学会で発表している事により、沼の保全対策は、全国から注目を浴びている。		S	各研究員が、伊豆沼、内沼に生息・生育する鳥類、魚類、水生植物等に関する研究を鋭意行っており、学会等においてその成果を発表するなど積極的に情報発信をしている。特にこうした研究成果を基とした沼の保全対策は全国からも高い評価を受けている。	S
④自主事業の実施	別記2のとおり		自主事業は、参加者から好評で、リピーターが多く参加している。		S	「伊豆沼・内沼の自然フォトコンテスト」は、29回と回を重ね、伊豆沼・内沼の自然の素晴らしさと、自然保護の重要性を広く伝えてきている。また、様々な自然体験講座を開催し、自然保護思想の普及に努めている。	S
⑤利用者サービスの向上	厳しい予算の中、入館者のニーズに応えるべく、サンクチュアリセンターのパンフレットを独自で作成し配布を行い好評を得ました。また、情報の発信は、ホームページを常に更新し、伊豆沼・内沼サンクチュアリセンターニュースを毎月発行し活用、さらにはマスコミなどを通じ、水鳥やブラックバス等の情報はじめ調査研究などを積極的に情報発信に努めた。 研修室や会議室は、管理運営に支障のない限り伊豆沼・内沼関連の各種会合等に開放し、有効活用を図った。		地元はもとより県内、県外からの多くの方々が来館する。少ない人数で沼の保全対策からサンクチュアリセンターの運営までを行う当財団の役割は大変高く評価されている。		A	インターネットを活用し、情報の発信に努めている。独自の広報媒体としてセンターニュースを毎月発行しているほか、観光客の利便に供するため、観光地図等を取りそろえ提供するなど、来客者のニーズに的確に対応している。	A
⑥利用者の苦情、要望等の把握とその反映	館内に設置する「ご意見カード」の意見の内容を分析し、誠実に対応した。接遇にも十分留意しながら対応し、トラブルの未然防止に努めた。施設利用者の利便性と入館者増加に向け、館内展示物の配置に工夫するなど、観葉植物、花鉢を設置し、うるおいのある空間づくりに努めた。		来館者からの意見を参考に、展示物に予算をかけられないため、職員が展示物やパネル等を作成し館内展示を行っている。		A	来館者の意見を大切にし、伊豆沼・内沼の自然の紹介や、研究成果を分かりやすく展示するなど運営に活かしている。	A
⑦安全対策	毎年9月に築館消防署において、職員全員で心肺蘇生の講習会を行い、来館者に対して速やかに対応できるよう訓練を行った。消防法で、定められている防火管理者等の有資格者を配置して、火災予防について万全な管理に努めた。		消防設備等の点検において不具合等があった場合すぐに修繕を行っている。常に危機的意識を持ち、大きな災害に備えている。		A	消防設備の点検等の安全管理について適正に行われている。また、緊急時の連絡体制も整っている。	A
⑧県民の平等利用	センターの利用及び各種自主事業への参加については、県内、県外を問わず公平平等とし、誰にでも気軽に利用できる様にした。また、調査・研究の成果については、一般にも広く公表し、その成果を社会に還元した。		事業のPR及び調査研究の成果は、県サンクチュアリセンターが展示施設だけではなく、伊豆沼・内沼の環境保全対策及び調査研究機関である事を広く県内外に浸透しつつある。		A	各種の自主事業を広く周知し、多くの参加を得ている。また、調査・研究成果は、学会や誌面を通じ広く公表され、その成果は、高い評価を得ている。	A

項目	事業実績 【指定管理者記入】	指定管理者の自己評価 【指定管理者記入】		県の評価 【施設所管課記入】	
			評価		評価
⑨個人情報の保護	1. 情報公開については、県の情報公開条例は勿論のこと、財団情報公開規程により、適切に対応することになっている。 2. 個人情報保護については、県の個人情報保護条例を遵守し、「伊豆沼・内沼の自然フォトコンテスト」や「自然体験講座」、その他センターで得られた個人情報は、個人の権利利益の侵害の防止を図るため、慎重かつ適正に取り扱った。	令和元年度の情報公開の要請はなし。	A	実施事業で得られた個人情報は、適正に取り扱われている。	A
⑩利用実績	上記「4. 施設利用実績」のとおり	上半期は、ハスの開花が遅れ影響し初夏に減少したものの、上半期全体では、532人の増となった。また、下半期は、新型コロナウイルスの影響により、2月・3月に入館者が減少し、全体では、1,440人の減となり、昨年度入館者数の95%となった。	A	入館者が昨年度と比較して1,440人減少しているが、開館日数307日、1日の平均入館者数104人という数値は、栗原市にある施設としては、なお高い水準にあるものと思われる。	A
⑪収支実績	上記「5. 施設利用実績」のとおり	経費削減を実施し、粗餐の範囲内での執行を行った。	A	限られた予算の中で、各事業が適正に執行されている。また、協賛企業からの支援を有効に活用し事業に取り組んでいる。	A
⑫その他の取組	絵画展の開催、民間企業が沼周辺で行うボランティア活動に協力を行い、自然保護思想の普及活動にも力を入れた。また、学校や各種団体から依頼された講師派遣や自然観察会などの実施に積極的に対応した。なお、新たに出前講座を開講した。	地域に密着した事業を展開するため、事業以外の取り組みも、重要視される。毎年開催している伊豆沼・内沼出前講座には、107名の参加があり、今後も地元との連携を密にし、事業を推進したい。	A	他団体とも連携した事業が積極的に進められている。	A
総合評価		調査・研究及び沼の保全の核となるサンクチュアリセンターの経費の削減等を行い、管理に努めている。伊豆沼・内沼の環境保全対策は、多くの県民から高い評価を得ている。	A	県の環境保全の代表的な実践地として、沼の生態系保全等に関する研究成果を広く社会に還元している。また、環境教育施設としての役割も十分果たしている。	A

【指定管理者が行う自己評価の基準(目安)】

評価	評価の考え方
S	年度事業計画書等の内容を上回る実績であり、優れた管理運営を行った。
A	年度事業計画書等の内容と同程度の実績であり、適正な管理運営を行った。
B	年度事業計画書等の内容を下回る実績であり、さらなる工夫・改善が必要である。
C	年度事業計画書等に基づく管理運営が適切に行われなかった。大いに改善努力が必要である。

【県が行う評価の基準(目安)】

評価	評価の考え方
S	年度事業計画書等の内容を上回る実績であり、優れた管理運営が行われた。
A	年度事業計画書等の内容と同程度の実績であり、適正な管理運営が行われた。
B	年度事業計画書等の内容を下回る実績であり、さらなる工夫・改善が必要である。
C	年度事業計画書等に基づく管理運営が適切に行われたとは認められず、大いに改善努力が必要である。

7. 施設管理運営の課題等【指定管理者・施設所管課記入】

項目	指定管理者 【指定管理者記入】	県 【施設所管課記入】
管理運営の課題等	昨年度と比較した場合、入館者は減少したものの、来館者から高い評価をいただいている。今後は、施設老朽化箇所について、自然保護課と協議を行いながら、施設の整備を行っていく。	老朽化する建物設備について、指定管理者に修繕計画書の提出を求め、緊急性を配慮しながら、優先順位を定めて計画的に修繕を行っていく。

別記1 【③運營業務(ソフト事業等)の実施】

研 究 業 績

○原著論文 (査読付学術雑誌)

第一著者

1. Shimada, T. Mori, A. & Tajiri, H. 2019. Regional variation in long-term population trends for the Greater White-fronted Goose *Anser albifrons* in Japan. *Wildfowl* 69: 105-117.
2. 嶋田哲郎・植田睦之・高橋佑亮・内田 聖・時田賢一・杉野目 齊・三上かつら・矢澤正人. 2019. GPS-TX による越冬期のマガモ, カルガモの行動追跡. *Bird Research* 15: A15-A22.
3. 嶋田哲郎・森晃. 2019. 宮城県におけるハクチョウ類の渡りに影響する要因. *伊豆沼・内沼研究報告* 13: 37-43.
4. 藤本泰文・山田浩之・倉谷忠禎・嶋田哲郎. 2019. 全周魚眼スマートフォンカメラを用いた水生生物の遠隔モニタリング. *応用生態工学* 21: 171-179.
5. 藤本泰文・速水裕樹・横山 潤. 2019. 1976年から2012年にかけて伊豆沼・内沼の湖岸植生で生じたマコモ群落の消失と樹林化. *湿地研究* :9. 29-37.
6. 速水裕樹・藤本泰文・横山 潤. 2019. 宮城県栗原市における外来植物アレチヌスビトハギとメリケンカルカヤの初記録. *伊豆沼・内沼研究報告* 13: 27-32.
7. 速水裕樹・藤本泰文・横山 潤. 2019. 宮城県栗原市におけるノグサの初記録. *伊豆沼・内沼研究報告* 13: 33-36.

○共著論文

1. Rees, E.C., Cao, L., Clausen, P., Coleman, J.T., Cornely, J., Einarsson, O., Ely, C.R., Kingford, R.T., Mitchell C.D., Nagy, S., Shimada, T., Snyder, J., Solovyeva, D.V., Tijsen, W., Vilina, Y.A., Wloderczyk, R. & Brides, K. 2019. Conservation status of the world's swan populations, *Cygnus* sp. and *Coscoroba* sp.: a review of current trends and gaps in knowledge. *Wildfowl Special Issue* 5: 35-72.
2. Sawa, Y., Tamura, C., Ikeuchi, T., Fujii, K., Ishioroshi, A., Shimada, T. & Ward, D. 2019. A leg-hold noose capture method for Brent Geese *Branta bernicla* at staging or wintering sites. *Wildfowl* 69: 230-241.
3. Doko, T., Wenbo Chen, W., Hijikata, N., Yamaguchi, N., Hiraoka, E., Fujita, M., Uchida, K., Shimada, T. & Higuchi, H. 2019. Migration patterns and characteristics of Eurasian Wigeons (*Mareca penelope*) wintering in southwestern Japan based on satellite tracking. *Zoological Science* 36: 490-503.
4. 安野 翔・藤本泰文・嶋田哲郎・鹿野秀一・菊地永祐. 2019.伊豆沼における安定同位体比を用いた肉食性外来魚カムルチーの食性解析. *伊豆沼・内沼研究報告* 13: 85-95.

○学会やシンポジウムにおける発表

第一著者

1. Shimada, T. 2019. Satellite-tracking of waterfowl from Japan. NIES_NIER_USGS International workshop 2019. Tsukuba, Japan.
2. Shimada, T. 2019. Satellite-tracking of waterfowl from Japan. The 2nd International Symposium on Developing effective coordinated Monitoring of East Asian Waterbirds in the 21st century, Beijing, China.

3. Shimada, T. 2019. Introduction for work of Miyagi Prefectural Izunuma-Uchinuma Sanctuary Center. 7th Wetland Link-International-Asia Conference, Taipei, Taiwan.
4. 嶋田哲郎・植田睦之・高橋佑亮（伊豆沼財団）・内田聖・時田賢一・杉野目齊・三上かつら・矢澤正人. 2019. GPS-TX による越冬期のマガモ, カルガモの行動追跡. 日本鳥学会 2019 年度大会.
5. 嶋田哲郎・植田睦之・高橋佑亮（伊豆沼財団）・内田聖・時田賢一・杉野目齊・三上かつら・矢澤正人. 2019. GPS-TX による越冬期のマガモ, カルガモの行動追跡. 第 14 回伊豆沼・内沼研究集会.
6. 藤本泰文・嶋田哲郎・井上公人・高橋佑亮・速水裕樹. 2019. 2016/17 年の低水位時に生じたオオハクチョウの採食活動によるハス群落の減少とその後の溶存酸素濃度の上昇. 第 14 回伊豆沼・内沼研究集会.
7. 速水裕樹・藤本泰文・上田紘司・森晃・嶋田哲郎・横山潤. 2020. ヨシ群落以深に発達する抽水植物群落の復元に向けた植栽試験. 日本生態学会 第 67 回大会.
8. 速水裕樹・藤本泰文・上田紘司・森晃・嶋田哲郎・横山潤. 2020. ヨシ群落以深に発達する抽水植物群落の復元に向けた植栽試験. 第 14 回伊豆沼・内沼研究集会.
9. 麻山賢人・藤本泰文・斉藤憲治. 2019. オオクチバス駆除後に自発的に再生したタナゴ *Acheilognathus melanogaster* の生息地. 第 9 回全国タナゴサミット.
10. 麻山賢人・藤本泰文・斉藤憲治. 2020. オオクチバス駆除後に自発的に再生したタナゴ *Acheilognathus melanogaster* の生息地. 第 14 回伊豆沼・内沼研究集会.

共著

1. 澤祐介・池内俊雄・田村智恵子・嶋田哲郎・藤井薫・石下亜衣紗・David Ward・Cao Lei. 2019. コクガンの秋季の渡りルートについて. 日本鳥学会 2019 年度大会.
2. 安野 翔・藤本泰文・嶋田哲郎・鹿野秀一・菊地永祐. 2019. 餌生物の少ない溜池におけるオオクチバスの食性解析事例：共食いとアメリカザリガニの餌としての重要性. 第 14 回伊豆沼・内沼研究集会.

○一般普及書

1. Shimada, T. 2019. Long-term population study on Greater White-fronted Goose in Japan. EAAFP Newsletter No.57 (Dec 2019).
2. 嶋田哲郎. 2019. 研究団体紹介（公財）宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団. Wildlife Forum 23(2): 34.
3. 嶋田哲郎. 2019. 特集コクガン研究最前線. 広報南さんりく 12月号: 26-27.
4. 植田睦之・嶋田哲郎. 2019. 寒さに弱い？ 寒くなると移動するマガモ. バードリサーチニュースレター. <http://db3.bird-research.jp/news/201911-no3/>

○委員会委員・非常勤講師など

（嶋田総括研究員）

1. 希少野生動植物保存推進員（環境省）
2. 重要生態系監視地域モニタリング推進事業（ガンカモ類調査）検討委員（環境省）

3. 宮城県生物多様性地域戦略検討委員（宮城県）
 4. 伊豆沼・内沼自然再生協議会委員（宮城県）
 5. 栗原市環境審議会副会長（栗原市）
 6. 栗駒山麓ジオパーク保護・保全部会長（栗原市）
 7. 登米市環境審議会委員（登米市）
 8. 登米市生物多様性ため戦略検討委員会副会長（登米市）
 9. 日本鳥学会評議員、事務局庶務幹事、企画委員、2020年度大会実行委員長（日本鳥学会）
（藤本研究員）
1. 希少野生動植物保存推進員（環境省）
 2. 宮城県希少野生動植物保護対策検討会委員（宮城県）
 3. 宮城県自然環境保全審議会専門委員（宮城県）
 4. 栗駒山麓ジオパーク推進協議会防災・教育部会委員（栗原市）
 5. 遠野市山口集落伝統文化的景観保存調査委員（遠野市）
 6. 旧品井沼ため池群自然再生推進委員（環境省）
 7. 日本魚類学会自然保護委員（日本魚類学会）
 8. 流域環境保全ネットワーク副理事

別記2【④自主事業の実施】

① 自然体験講座の開催

自然保護思想の普及啓発活動の一環として、季節ごとのテーマを設定し、年10回開催した。

◇令和元年度伊豆沼・内沼自然体験講座

回数	テーマ	開催日	参加者数
第1回	水辺の生き物採集と観察会	6月15日	27名
第2回	水辺の生き物採集と観察会	7月7日	24名
第3回	昆虫採集と標本作り	7月21日	34名
第4回	昆虫採集と標本作り	8月3日	24名
第5回	伊豆沼漁師体験	8月17日	24名
第6回	伊豆沼漁師体験	9月15日	26名
第7回	ガンの飛び立ち観察会& ラムサール湿地見学ツアー	11月3日	15名
第8回	ガンの飛び立ち観察会& ラムサール湿地見学ツアー	11月24日	27名
第9回	ガンの飛び立ち観察会& 沼歩き探鳥会	12月7日	20名
第10回	ガンの飛び立ち観察会& 沼歩き探鳥会	1月11日	26名
	合計		247名

※ 予算内訳 収入 財団 計 11万円
支出 諸謝金、燃料費、保険料、委託費 計 11万円
(経費が少ない理由は、財団職員が講師を行っているため。)

② 第29回伊豆沼・内沼の自然フォトコンテストの開催

栗原・登米両市との共催事業となっており、伊豆沼・内沼の重要性と環境保全の大切さをアピールした。なお、作品は12月に募集を行い、審査を経て、2月、3月県サンクチュアリセンターで全作品の展示を行った。(出品者66名、内入選者20名)

表彰式 令和2年2月11日(火)午後1時30分 県サンクチュアリセンター

<第28回写真展巡回展示箇所(入選作品のみ)>

登米市伊豆沼内沼サンクチュアリセンター 令和元年5月2日～5月30日
登米市市役所一階ロビー 令和元年6月1日～6月28日
栗原市市役所一階ロビー 令和元年7月3日～7月27日
栗原市サンクチュアリセンターつきだて館 令和元年8月1日～8月31日
宮城県庁1階ロビー 令和2年2月7日～2月21日

※ 予算内訳 収入 栗原市40万 登米市30万 財団40万 計 110万円
支出 旅費、通信、消耗品、印刷費、諸謝金(賞金等) 計 110万円

③ 伊豆沼・内沼クリーンキャンペーンの実施

伊豆沼・内沼はラムサール条約指定登録湿地として国際的にも注目される湖沼であり、美しい湖沼環境を保全するため、春分の日に登米・栗原両市と共催で第61回伊豆沼・内沼クリーンキャンペーンを開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大予防の為、中止となった。

<クリーンキャンペーン実行委員会メンバー>

栗原市若柳自然保護協会、伊豆沼漁業協同組合、内沼観光物産協議会、
迫川上流土地改良区、伊豆沼土地改良区、穴山土地改良区、新田北部土地改良区、
宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリ友の会、財団

※ 予算内訳 収入 財団
支出 印刷

計 5万円
計 2万円

④ バス・バスターズの活動（ブラックバス駆除ボランティア）

伊豆沼・内沼では、オオクチバスの影響によって沼から姿を消してしまった希少魚ゼニタナゴの復元を目指す「ゼニタナゴ復元プロジェクト」の一環として、ボランティアの「バス・バスターズ」の協力を得て、オオクチバスの駆除活動を2004年から行っている。上半期では、オオクチバスは5箇所の産卵床を駆除した。一方、ブルーギルの産卵は確認されなかった。このほか、ふ化してまもないオオクチバスの稚魚141, 416個体を駆除した。

イ 会 議 ゼニタナゴ復元プロジェクト会議 5月19日

- ・令和元年度のブラックバス駆除活動方針の協議
- ・人工産卵床設置作業

ロ 駆除作業

5月中旬から6月下旬までの毎週日曜日に人工産卵床の確認と駆除作業を行った。参加者数は延べ152名であった。

⑤ 調査研究・普及啓発事業

伊豆沼・内沼の自然環境の保全管理のため、東北大学などの各種研究機関やシナイモツゴ郷の会をはじめ、各種団体との連携を密にし、調査研究並びに保全活動を行った。

また、伊豆沼・内沼研究報告13巻に10本の論文を掲載したほか、センターニュースやホームページを活用し情報の発信に努めた。入館者に対しては、リニューアルオープンした展示品を活用した恒常的な解説に努めるとともに、出前講座をはじめ学校・各種団体等からの講演・講話要請等についても積極的に受入れし対応した。

さらに、小中学生の研修に対しても積極的に対応するとともに、家族向けに昆虫採集や水生生物の観察などをテーマとした伊豆沼・内沼自然体験講座を開催した。このほか、オオクチバスの駆除や在来魚類の復元などにおいては、ボランティアの協力も得ながら事業を推進した。

1 調査・検討会への参加状況

年 月 日	団 体 名
平成31年 4月19日	自然再生事業打合せ（県庁）
令和 元年 5月 7日	宮城県希少野生動植物保護対策検討会（仙台市）
5月16日	自然環境保全審議会（県庁）
5月20日	鳥類感染症国際ワークショップ（つくば市）
5月23日	魚取沼テツギョ保全対策モニタリング調査
5月29日	横山先生（山形大）調査（年数回）
5月30日	栗駒山麓ジオパーク運営委員会（栗原市）
6月13日	見直し事業打合せ（県庁）
6月14日	愛鳥週間ポスター審査会（県庁）
6月14日	登米地域事務所打合せ
6月20日	伊豆沼漁協打合せ
6月20日	環境省東北地方環境事務所打合せ
6月23日	鳥フルシンポジウム（日本獣医生命科学大学）
6月26日	自然再生事業学識経験者会議（県庁）
6月27日	栗駒山麓ジオパーク推進協議会専門部会（栗原市）

	7月11日	海津先生（東大）調査（～7月12日）
	7月24日	トヨタ東日本打合せ
	7月30日	海津先生（東大）・山田先生（北大）調査（～8月3日）
	7月31日	栗原地域事務所打合せ
	8月16日	自然保護課打合せ（県庁）
	8月21日	栗駒山麓ジオパーク推進協議会保全部会（栗原市）
	8月21日	トヨタ東日本打合せ
	8月22日	自然再生協議会意見交換会・現地調査（登米市）
	9月 3日	南三陸町との打合せ
	9月13日	県ワイズユース打合せ
	9月16日	自然再生協議会全国大会（山口県～9月18日）
	9月19日	宮城県生物多様性地域戦略推進会議（県庁）
	9月23日	湿地環境教育会議（韓国釜山市～9月26日）
	9月29日	県自然再生協議会委員打合せ
	10月 4日	第14回伊豆沼・内沼自然再生協議会（登米市）
	10月 7日	山田先生（北大）調査（～7月10日）
	10月10日	環境省打合せ
	10月14日	東アジアガンカモ類シンポジウム（中国～7月18日）
	10月21日	ジオパーク推進協議会保護保全部会研修会（栗原市）
	10月30日	国際航業打合せ
	11月 6日	登米市生物多様性会議（登米市）
	11月 7日	水野先生（東大）調査（～11月10日）
	11月12日	栗原市環境審議会（栗原市）
	11月13日	ジオパーク審査会・講評（栗原市）
	11月15日	北海道・東北自然保護主管課長会議（仙台市）
	11月20日	宮城県希少野生動植物保護対策検討会（仙台市）
	11月25日	宮城県生物多様性地域戦略会議（仙台市）
	11月25日	モニタリング1000（陸水域調査）会議（東京都）
	12月 1日	湿地マネージャー会議（台湾、～12月7日）
	12月 4日	自然保護課打合せ
	12月 6日	モニタリング1000（陸水域調査）会議（東京都）
	12月24日	モニタリング1000（ガンカモ類調査）検討会（東京都）
	12月26日	沈水植物検討部会
令和2年	1月10日	自然研究所鳥インフルエンザマニュアル検討会
	1月10日	栗原市文化財保護課打合せ
	1月16日	自然再生ワイズユース会議
	1月16日	環境省打合せ
	1月17日	ジオパーク推進協議会保護保全部会（栗原市）
	1月28日	日露渡り鳥条約会議（～1月29日）
	1月30日	ジオパーク推進協議会専門部会（栗原市）

2月 6日	クリーンキャンペーン・野火打合せ
2月 7日	栗原市建設課打合せ
2月11日	千葉県レッドリスト会議（千葉市）
2月13日	宮城県生物多様性地域戦略会議（仙台市）
2月15日	伊豆沼内沼自然再生協議会
2月21日	登米市農村整備課打合せ
3月 5日	クリーンキャンペーン実行委員会打合せ
3月 6日	自然保護課打合せ
3月11日	北部地方振興事務所打合せ

2 調査研究援助

(1)鳥インフルエンザ対策（環境省東北地方環境事務所）

3 出前講座の開催状況

開催日	団体名	テーマ	参加者数
7月17日	登米市立西郷小学校	伊豆沼の動植物についての講話	17名
8月29日	登米市立新田小学校	伊豆沼の生き物についての講話	26名
10月24日	登米市立新田小学校	渡り鳥についての講話	22名
11月 6日	登米市立新田小学校	野鳥観察会・渡り鳥の講話	22名
11月 7日	登米市立新田小学校	伊豆沼の環境保全の取組み	20名

※ 予算内訳 収入 財団
支出

計 130万円
計 120万円

☆ 自主事業収支

（単位：千円）

自主事業区分	収入	支出	収支
自然体験講座	110	110	0
フォトコンテスト	1,100	1,100	0
クリーンキャンペーン	50	20	30
調査研究・普及啓発	1,300	1,200	100
合計	2,560	2,430	130